



くりお のりこ
栗尾典子議員

**救急艇導入についての
答弁に関する疑義**

議員 救急艇の運航体制と救急体制はできているという副市長の発言は虚偽だったのか。

副市長 消防組合議会で費用負担は組合がするといった解釈をされた。笠岡市の所有となる救急艇を組合に運航、運営を委託する。諸経費は精査した上で協議していく。
議員 島民からの要望を受ける等も消防が対応しているとのことだが、笠岡市が検討してから消防組合に提案するのが手順では。

市長 私は管理者として組合に解決、環境整備をするよう指示する。
議員 市長の立場と管理者の立場を分けて考えるべき。副管理者とも合意できていないし、議員とも



認識が一致していないと感じる。事実に基づいた議論ができなければ議会の存在意味がない。

**中心市街地ランドデザインと
笠岡市のめざすまちづくりを問う**

議員 ビジョンを持ってまちをつくっていくことが重要である。貫読講堂はどうするのか。

市長 学校施設用地内の安全性を最優先し、費用対効果を踏まえ施設の解体も視野に入れて考える。駅周辺の整備構想を議会と共有しながら進めていきたい。

議員 笠岡のシンボルとして残していたいただきたい。笠岡の未来を考え、ランドデザインをもって納得したい。庁舎建替、駅前、商店街など全てがビジョン次第なので、目先のことではなく、未来を見据えて笠岡のまちをつくっていただきたい。



くらもと たかふみ
藏本隆文議員

**現状のまちづくり協議会では
行政運営の核には程遠い**

議員 市内全域でまちづくり協議会が発足して9年目だが、理想と現実の状況はどうなっているのか。

市長 一定の成果は現れているが、全市的には地域差が生じている。地域計画の策定が重要となる。

議員 まちづくり協議会自体が市民には負担となっている。なぜ必要で、市民に何がメリットなのか。

政策部長 市民に、自らの地域に住みよいまちにしていくよう考えていただく。他市にも誇れる良い取組と感じている。

議員 財政が緊迫している中で、次の世代に負担をかけてはならない。行政と地域で市民要望に効率的に答えていかなければならない。



**笠岡諸島の日本遺産登録後の
発展にインターネットは不可欠**

議員 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で始まった在宅ワークも定着してきた。最近ではリゾート地での在宅ワークを採用する企業も増えている。笠岡諸島に、企業誘致・定住促進・観光誘致するには、インターネット環境が最大のネックである。この対策についてどのように考えているのか。

市長 携帯電話等の通信エリアは有人7島が含まれ、住民が居住の全ての地区で利用可能である。

議員 現在の状況では、企業が使うには無理がある。光回線整備の予算を国に働きかけていくべきではないのか。

政策部長 費用対効果とともに整備方法について検討する。